

③

主題 「勝利を得る者」

題 「妥協する教会」

副題 「証しながら戦っている教会」

聖書 ヨハネの黙示録 2:12~17

有賀喜一

勝利を得る者として、7つの教会について学んでおります。19世紀のリバイバルの教会フィラデルフィア、起死回生の教会ラオデキア、初めの愛に立ち返った教会エペソ、冠の教会スミルナについて学びました。

今回は「妥協する教会」ペルガモから学びます。

ヨハネの黙示録 2章 12~17

2:12 また、ペルガモにある教会の御使いに書き送れ。『鋭い、両刃の剣を持つ方がこう言われる。

2:13 「わたしは、あなたの住んでいる所を知っている。そこにはサタンの王座がある。しかしあなたは、わたしの名を堅く保って、わたしの忠実な証人アンテパスがサタンの住むあなたがたのところで殺されたときでも、わたしに対する信仰を捨てなかった。

2:14 しかし、あなたには少しばかり非難すべきことがある。あなたのうちに、バラムの教えを奉じている人々がいる。バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々の前に、つますきの石を置き、偶像の神にささげた物を食べさ

せ、また不品行を行わせた。

2:15 それと同じように、あなたのところにもニコライ派の教えを奉じている人々がいる。

2:16 だから、悔い改めなさい。もしそうしないなら、わたしは、すぐにあなたのところに行き、わたしの口の剣をもって彼らと戦おう。

2:17 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。わたしは勝利を得る者に隠れたマナを与える。また、彼に白い石を与える。その石には、それを受ける者のほかはだれも知らない、新しい名が書かれている。』

序 アジアでの最も有力な都市の一つであったペルガモは、小アジアの西部に位置し、スミルナの北、地中海から32キロにありました。非常に裕福な町で偶像崇拜に捧げられた多くの神殿があり、像や祭壇、神聖な木立で満ちていて、重要な宗教的中心地だと一般の人からも言われていました。特にアスクレピオス神殿には、蛇の偶像があり、「サタンの王座」とも呼ばれていました。同時に文化的都市であり、20万冊の蔵書を誇る図書館があり、これは後にアントニウスからクレオパトラに対する贈り物としてエジプトに送られたと言われています。また特産品として羊皮紙があり、ペルガメナと呼ばれていました。

1 偶像崇拜の中心地にあった教会 2：12

ペルガモの町では、ゼウスが全世界の支配者であり、ア

スキレピオスが救い主であり、蛇が神聖な動物として崇められていました。この町にイエス・キリストの教会が建てられたのです。AD316年に、ローマの皇帝コンスタンスチヌスによって、キリスト教が国の宗教として承認され迫害は止みましたが、結局教会は国家と結びつき、社会と妥協し、墮落しました。

厳しい迫害の中では、命をかけて信仰を守るという姿勢が起こってきます。しかし、迫害がないと、人々の信仰生活もなまぬるくなり、社会に同調しがちです。

韓国の教会は今危機を迎えています。コロナによって、国が教会で集会をもつのを禁じ、何ヶ月も集会をもてませんでした。最近、それが緩和されてきたのに、人々は休み癖がついてしまい、教会に帰らず、多くの韓国の方が嘆いておられます。一方アメリカでは、国が何と言おうと、集会を守っている教会もあります。

皆さんは、交代で集会をもっておられますが、オンラインで集会をする時も、どうかあなたの家が、この教会と靈的に神の臨在で直結していることを覚えて、同じ臨在の中で礼拝をしている意識を失ってはなりません。司会者は、マスクをして声を落として賛美するようと言われますが、私達の心は「うちなるすべてのものよ、主をほめたたえよ。力を尽くしてほめたたえよ」（詩篇103）であるべきです。ともすれば、ずっと声を落として賛美する癖がついてしまい、心から叫ぶような祈りや賛美が出来にくくなってきます。

この世は、文化的、経済的、教育的に人間の知恵が向上し、人間の技術が、もう神様抜きでやっていけるという雰囲気があります。ですから私達は、ペルガモの教会のように妥協することのないように、私達の生活において、祈りと御言葉の時間を取り、集会に来る回数が減っても教会との結びつきが薄くならないように、空き時間を伝道に有効的に用いることが出来るようにと、常に心していく必要があります。そうでないと、私達は妥協しやすくなってしまいます。

2 イエス・キリストの称賛と叱責 2:13~16

1) 称賛

- ペルガモの宗教的環境に生きることは「至難の業」であった。

「わたしは、あなたの住んでいる所を知っている。」

20年程前に神様はあわれみをもって、私達を神戸から高槻に引っ越すように導いて下さいました。現在の住居は、車の往来も少なく、森も近くにあり、地震にも強く、嵐の時も守られました。しかも家を建てる時、母の土地を阪神大震災によって神戸市が買ってくれたので、母は同居する際に、家の費用を出してくれました。神様は、一つ一つ私達の事情、境遇までも考えて下さる御方だと感じました。

「そこには、サタンの王座がある」

偶像が4つもあり、それぞれの神殿が丘の上に連立し

ていて、そこには宮参りや祭りがある、そういう中でクリスチャンとして、そのような偶像と断ち切りながら生活をしていくのは、まさに至難の業でした。

- わたしの名を堅く保った

そういう中で、あなた方はわたしの名を堅く保ち、微動だに揺れないで信仰を堅く保ったと称賛されています。

- アンテパスの殉教にも、信仰を捨てなかった

アンテパスは、皇帝を拝まなかったので、無神論者とみなされ、町中を引きずられ殉教しました。そしてペルガモの人達は、イエス様の血と肉に預かる聖餐式が、人間の肉を食べ、血を飲む行為だと非難する人々によって、村八分にされ、店で物を買えない、仕事も与えられないような状況の中、アンテパスの殉教に関わらず、自分たちにも危険が及ぶのを感じながらも信仰を堅く守り、捨てませんでした。殉教というギリシャ語は、マルトウスといい、証人という意味です。そこから殉教者という意味の英語マターができました。

まさにペルガモの教会の人々は、命をかけて自分はキリストの証人となっていく、そのような決意を持っていたのをイエス様が称賛をされたのです。

皆さんも、コロナの中でも信仰をしっかり保ち、礼拝を重んじ、神様の新しい働きの為に、自らを整え備えておられるのは、イエス様の大きな喜びとするところであります。

2) 叱責

- バラムの教え (民22：1～24, 25)

バラムは、異教の国バラクの王に2回招かれました。バラクはイスラエルの国が繁栄するのを妬み、バラムにバラクを祝福しイスラエルを呪うように招待しました。バラムはその招待をきっぱり断るべきだったのに、貢物を見て心が動かされました。神様に行くと言われ一度は断りましたが、第二陣が再び彼を口説きました。神様は、バラムは祈っていても、その心が金に弱いと見抜かれ、バラクに行くことを許可しました。バラムは預言者なので、結果としては、バラクを祝福出来ずに帰ってきました。

愛する皆さん、私達は、心の中にいつでも神の御言葉と神様ご自身に対する100%純粋な心をもってなければなりません。私達の心はどっちつかずではなく、神様がこれが道だと言われたならば100%服従の心をもって歩み続けて頂きたいです。

- ニコライ派の教え

もともとニコラウスは、アンテオケの改宗者でした(使徒6：5)が、正統派の信仰を離れて、自由な身となったクリスチャンは、勝手気ままにどんな生活をしていても良いと教えました。確かにパウロは福音によって自由になったと言っていますが、神様の御心の中で自由であるという意味です。